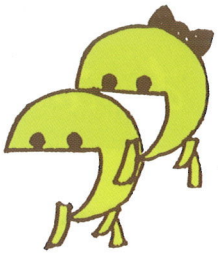
西原まちづくり情報紙



広報 あいあい

第66号
令和２年10月31日
発行：西原地域コミュニティ協議会
TEL/FAX：028-635-7139
西原地域コミュニティセンター内

参加してみませんか

地域支え合い活動

人と人とがつながる地域づくり

《特集》めざせ！地域共生社会

西原地区では、平成30年4月に地域で支え合い、助け合う仕組みを考えることを目的として、「にしはら支え隊」（西原地区協議体）を設立した。

毎月、コミセン会議のあと、自由参加で15名ほどが堅い会議にならないようコーヒーやお菓子を食べながら活発に意見交換を行っている。

これまで、他地区の活動を学ぶ勉強会を何度も重ねてきた。昨年8月にはアンケートを実施し、その結果をまとめて地域回覧で報告した。その結果、具体的な困りごとに対して「手伝ってあげたい」という声が予想以上にあり、多くの人々がボランティアに高い関心と意欲を持っていることが分かった。

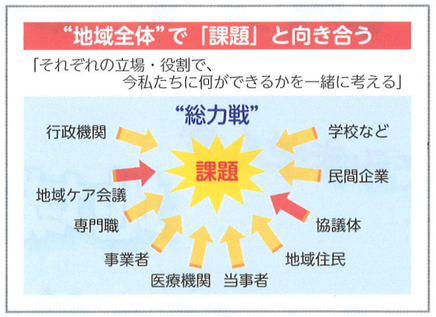
そこで、試験的に「草むしり」を実施してみることになり、依頼者とボランティアの募集をすると一件の依頼と3人のボランティアが集まった。日程調整の結果8月29日の朝8時から1時間、依頼者宅での草むしりが行われた。

カマ、手袋、ごみ袋、蚊取り線香、虫よけスプレー、ペットボトルなども用意。まだ真夏の太陽が照りつける中での作業は過酷で熱心な3人の様子に依頼者女性2人も加わりいっしょに行った。入り口から奥まで1時間でほぼきれいになった。

＊主な内容＊

表紙〈特集〉めざせ！地域共生
2P 敬老の日に

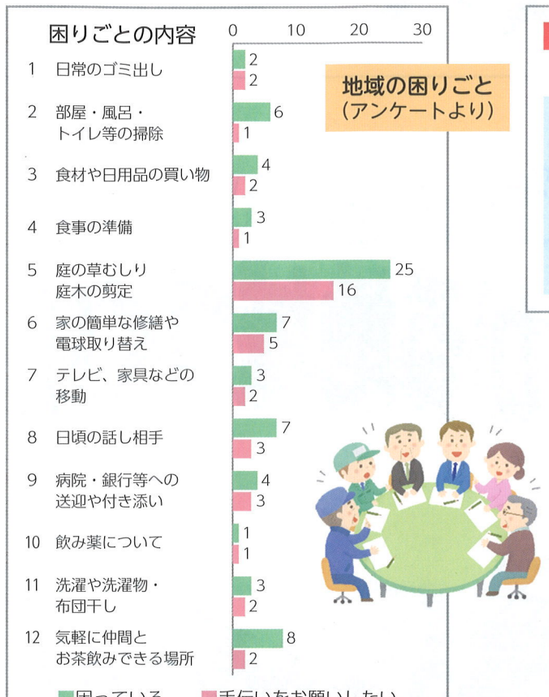
〈特集〉めざせ！共生社会
★支えられる地域の輪



草むしり活動に続き、今後も試験的な生活支援サービスを実施し、最終的には地域コーディネーターを窓口とする有償ボランティアの仕組みを目標としている。

支え隊の話し合いは、毎月第3か第4の土曜日午後2時より西原コミセンの合同会議のあと3時半まで開かれているので、直接会場へ。

自由参加なのでボランティアに関心のある人は誰でも、特に各種団体長や自治会長、福祉協力員はぜひ参加して気軽に意見を寄せてほしい。



★敬老の日に

今年の敬老者は1、131人、100歳以上が3人、新敬老者は62人となった。

100歳！おめでとうございます

花房本町の高松政男さんが、100歳を迎えた。

今年は、コロナで敬老会が中止となった爲に、社会福祉協議会長の福田浩二さんが自宅を訪問した。安倍晋三前総理大臣と佐藤栄一宇都宮市長からの表彰状が手渡されると、寄り添う妻のトミさん（93）と恥ずかしそうに微笑んだ。

政男さんは高校で物理を教えていた。部活動にも熱心で退職後も85歳まで、自転車に乗って旭中学までテニスを教えに行った。

90歳を迎える頃、パソコンを使って栃木県ソフトテニス連盟創立70周年記念誌を仲間と完成させた。

地域きってのおしどり夫婦としても知られる。今は、10人目のひ孫の誕生を楽しみにしている。

敬老の歳を迎えて

陽南東部自治会長　埴田　義矩

令和2年の二月から降って湧いたようなコロナウイルスの蔓延で、敬老の日の祝賀会が中止になりました。

日本では75歳以上の高齢化率が5年前は13・4％であったのが、今年は15・1％を超えています。陽南東部自治会では去年が20・3％で、今年は21・3％を超えました。敬老年齢なども負担過剰にならないように、自ずと75歳のスタートラインが先に延びていくのでしょうか。

実は私達が子供の頃は60歳定年、還暦の歳に敬老を迎えていました。

現在は75歳で敬老ですが、この先敬老会は76歳や77歳以上になっていくかもしれません。

いま私達はコロナに罹患しないように注意して、残りの人生を健康で楽しく暮らしたいと思います。

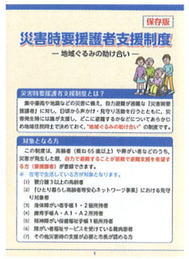
★防災ネットワーク女性部会が発足

これまで婦人防火クラブとして西原婦人会が活動していたが、解散となったため、新しい組織、防災ネットワーク女性部会が発足することになった。会長に市会議員の福田智恵さんを迎え、西原地区の若手女性を中心にメンバーを構成する。

昨年の台風時に体育館に避難した方々から「誰に（役員さんとして）声を掛けていいのかわからない」という意見があったので、みどりのジャンパーを新調し活動することになった。

◇災害時の避難に対する支援について

災害時に一人で避難することが困難な高齢者等皆さんへの支援体制を再構築



市が創設した災害時要援護者支援制度が全域で運用されている。

当地区は、支援を希望する方の申請に基づき支援者の選定を行い、災害時の支援行動に備えているものの、制度の存在が分からないことによって申請されていない実態等が懸念される。そのため連合自治会が制度の内容を記したパンフレットを11月下旬以降全世帯に配布し合わせて申請を希望する方を募る予定。

後期の行事について

コロナウイルス感染予防のため、次の後期行事は中止になりました。

・地域ＰＴＡ文化祭

●趣味ゆうゆう●

随想　小林　久夫　花房2丁目

男体山（日光二荒山神社）と私

昭和36年の春頃、日光二荒山神社男体山登拝講社日の丸講の世話人から両親を通じて青年部ができるので息子さんを入部させてくれないかと話があった。それから、50年余り男体山とのお付き合いが始まった。

戦争の影響があって、当時は日本文化の発祥である神社や仏閣のお祭りが復活されていなかった。それを復活させようと、若い氏子や信奉者に呼びかけ、全国的な青年部を組織した。男体山の登拝講社だけでも50社位あった。

入部と同時に副部長に推薦され8年後には部長になっていた。40歳を過ぎるまで青年部の活動を続けた。仕事も忙しく、子どもに手のかかる時期なのに、家のことは妻に任せ切りだった。しかし、青年部で得たことは、大きかった。山開き前の登山道の整備は前日に集合し、翌日早朝から作業に入った。前年の秋に台風などがあった年は登山道の崩れがひどく困難を極めた。岩石を取除き、杭を打って修復し、登山道の目印をペンで標示した。登拝者の安全を考えながらの修復だ。ある年は、7合目にある山小屋を用材を担いで登り修復した。全てボランティアである。山開きの8月1日も前日に7月31日夕方から山に登り、山頂から登拝口まで手配された各所に待機した。開門までは数時間の間がある。自分がこれからどう生きればよいのか、その時考えた。自分の神。この奉仕の中で考えた「私の神様」は，自分の心の持ち方だった。人間生きて行くには、いろいろ困難もある。仕事のこと、家族のこと、様々な人々との関係、自分の心持ちひとつで、上手にいくのではないだろうか、神社の御神体は鏡が古来から多い、その鏡が写すのは自分の心だと、仕事の皆違う青年部の人達との無欲の集まりの中で知った。良い仲間に遭えた。爾来50余年、この青年部の連中と付き合っている。

日光二荒山神社の宮司さんをはじめ神職の方々も良く指導をしてくださる。私の叙勲のお祝いに朱椎の日光彫のお盆をくださった。新しい家のお払いと神棚の入神には神社№2の権宮司中磨輝美様が若い神職を伴って拝みにきてくれた。ありがたいことである。「至誠　天に通ず」まことを尽くせば、人は解りあえる。そう言う生き方をしよう。

あいあいサイト

◆花房本町でグランドゴルフ大会

花房本町遊悠会では、毎週金曜日にはなぶさ児童公園でグランドゴルフの練習を行っている。7月17日は親善大会が行われた。

参加者17名は5つのチームに分かれ競技を開始。大会という緊張のせいか4ゲーム終了後の結果は男子がふるわず、5位までを女性が占めた。

その後、3密を避けて公園にテーブルと椅子を並べ、昼食会を行った。

◆明るい自治会をめざして

茂登町自治会会長、板垣博史さん（69）は、会長に就任して3年になる。町内に住宅やマンションができたことで、新旧住民との親睦を深めたいと一念発起！自治会便り”明るい茂登町“を発行して35号を数える。

月に1度、回覧板と共にまわす。自治会活動の様子や様々な分野で地道に取り組む人を紹介している。情報収集源は、前任の事業部長の時に立ち上げたソフトボール部や敬老者と子供達とのレクリエーション等で広がった人脈だ。常にアンテナを高くして、2か月先を見越して記事作りに余念がない。このような自治会長を中心にした今後の自治会活動が期待される。

編集つれづれ記

コロナ感染対応は、つながり作りの大切な今の地域社会に「つながってはいけない」と呼びかけている。物理的な距離は必要でも気持ちはつながることを目ざしたい。

増渕

「例年通り」は簡単なこと、と思っていた。

でも「例年通り」には条件があって当たり前ではないのだと改めて知った。

成長と変化のある「例年通り」の素晴らしさと、変化し続ける世界は、一日として同じ日はないのだということ、痛感している。

加藤

先日、101歳のお祝いの取材に昨年お邪魔した宇塚礼さんを訪ねた。突然の訪問なのに、マスクをしている私に「～さん、お久しぶりね！」と笑顔と元気な声がはじけた。

私の名前を覚えてくださっていた。

人との出会は、貴重だ。大切に心を込めて、おもてなしをするという心がけ。

まさしく一期一会。

大河原

コロナのために世界中がおかしなことになってしまっている。

朝の来ない夜はない

春の来ない冬はない

ここはじっと我慢のときと希望をもって耐えようかと。

岩本